

Dyson 模型の複素ブラウン運動表現と行列式型相関関数

香取眞理 (中央大学理工学部)

\mathbb{I} を有限な添字集合とする．Dyson のブラウン運動 (BM) 模型 $X(t) = (X_i(t))_{i \in \mathbb{I}}$ は、径数 $\beta > 0$ としたときの、次の確率微分方程式系である；

$$dX_i(t) = dB_i(t) + \frac{\beta}{2} \sum_{j \in \mathbb{I}, j \neq i} \frac{dt}{X_i(t) - X_j(t)}, \quad i \in \mathbb{I}, \quad t \in [0, \infty). \quad (1)$$

ただし、 $\{B_i(t)\}_{i \in \mathbb{I}}$ は独立な 1 次元標準 BM である．これは、すべての粒子間に粒子間距離に反比例する斥力が働く (係数が $\beta/2$)、 \mathbb{R} 上の相互作用粒子系を表す．特に $\beta = 2$ の場合、次の 3 つの系と等価である．(粒子数を $n = \#\mathbb{I} \in \mathbb{N}$ とする．) (i) $n \times n$ エルミート行列に値をとる BM の固有値の従う確率過程．(零行列からスタートした場合は、各時刻 $t > 0$ で、分散 t のガウス型ユニタリ集団 (GUE) の統計に従う．) (ii) 非衝突条件を課した 1 次元 n 粒子 BM 系．(iii) A_{n-1} 型ワイル領域 $\mathbb{W}_n^A = \{x \in \mathbb{R}^n : x_1 < x_2 < \dots < x_n\}$ 内での吸収壁 BM の、調和関数 $h(x) = \prod_{1 \leq i < j \leq n} (x_j - x_i) = \det_{1 \leq i, j \leq n} [x_i^{j-1}]$ (差積、Vandermonde 行列式) による調和変換．

この $\beta = 2$ の場合を、ここでは Dyson 模型と略称することにする．

\mathfrak{M} を \mathbb{R} 上の非負整数値ラドン測度の空間とする． $\{X_i(t)\}_{i \in \mathbb{I}}$ を (1) 式の解として、我々は Dyson 模型を \mathfrak{M} に値をとる拡散過程 $\Xi(t) = \sum_{i \in \mathbb{I}} \delta_{X_i(t)} \in \mathfrak{M}$ と考える．初期配置が $\xi = \sum_{i \in \mathbb{I}} \delta_{x_i} \in \mathfrak{M}$ で与えられるとき、この拡散過程を $(\Xi(t), \mathbb{P}_\xi)$ と記し、この下での期待値を \mathbb{E}_ξ で表す．また、 $\mathfrak{M}_0 = \{\xi \in \mathfrak{M} : \xi(\{x\}) \leq 1, \forall x \in \mathbb{R}\}$ (多重点なし) とする．

$\xi(\mathbb{R}) \in \mathbb{N}$ である $\xi \in \mathfrak{M}$ に対して、 $u \in \mathbb{C}$ で径数付けされる整関数の族 $\{\Phi_\xi^u(z), z \in \mathbb{C} : u \in \mathbb{C}\}$ を導入する；

$$\Phi_\xi^u(z) = \prod_{x \in \text{supp } \xi \cap \{u\}^c} \left(1 - \frac{z-u}{x-u}\right)^{\xi(\{x\})}. \quad \text{ただし、} \text{supp } \xi = \{x \in \mathbb{R} : \xi(\{x\}) > 0\}. \quad \text{また、} \mathbf{v} = (v_i)_{i \in \mathbb{I}}, v_i \in \mathbb{R}$$

に対して、 $Z_i(t), t \geq 0, i \in \mathbb{I}$ を、 $Z_i(0) = v_i, i \in \mathbb{I}$ である確率空間 $(\Omega, \mathcal{F}, \mathbb{P}_\mathbf{v})$ での独立な複素標準 BM とする． $\mathbb{P}_\mathbf{v}$ の下での期待値を $\mathbf{E}_\mathbf{v}$ で表す．実部と虚部を、それぞれ $V_i(t) = \text{Re}Z_i(t), W_i(t) = \text{Im}Z_i(t), i \in \mathbb{I}$ と書くと、これらは独立な 1 次元標準 BM である．

本講演では次の等式を証明する． $\xi = \sum_{i=1}^{\xi(\mathbb{R})} \delta_{u_i} \in \mathfrak{M}_0$ 、ただし $\xi(\mathbb{R}) \in \mathbb{N}$ とし、 $0 < t < T < \infty$ とする．このとき、 $\mathcal{F}(t)$ -可測である任意の関数 F に対して、

$$\mathbb{E}_\xi [F(\Xi(\cdot))] = \mathbf{E}_\mathbf{u} \left[F \left(\sum_{i=1}^{\xi(\mathbb{R})} \delta_{V_i(\cdot)} \right) \det_{1 \leq i, j \leq \xi(\mathbb{R})} \left[\Phi_\xi^{u_i}(Z_j(T)) \right] \right]. \quad (2)$$

我々はこの結果を、Dyson 模型に対する複素 BM 表現 (CBM 表現) と呼ぶことにする．

CBM 表現は次の 2 つの事実から導かれる．(a) $\Phi_\xi^u(Z_i(\cdot)), i \in \mathbb{I}$ は独立な共形局所マルチンゲールである．(b) 任意の $\xi = \sum_{i=1}^{\xi(\mathbb{R})} \delta_{u_i}, \xi(\mathbb{R}) \in \mathbb{N}, \mathbf{u} = (u_1, \dots, u_{\xi(\mathbb{R})}) \in \mathbb{W}_{\xi(\mathbb{R})}^A, \mathbf{z} = (z_1, \dots, z_{\xi(\mathbb{R})}) \in \mathbb{C}^{\xi(\mathbb{R})}$ に対して、次

$$\text{の等号が成り立つ：} \quad \det_{1 \leq i, j \leq \xi(\mathbb{R})} \left[\Phi_\xi^{u_i}(z_j) \right] = \det_{1 \leq i, j \leq \xi(\mathbb{R})} \left[\prod_{1 \leq k \leq \xi(\mathbb{R}), k \neq i} \frac{u_k - z_j}{u_k - u_i} \right] = \frac{h(\mathbf{z})}{h(\mathbf{u})}.$$

CBM 表現 (2) より、Dyson 模型が行列式過程であり、その行列式型の時間相関関数を決定する Eynard-Mehta タイプの相関核を導くことが出来る．従来のランダム行列理論の方法では、この導出には直交多項式を用いた計算が必要であったが、調和変換の複素拡張の結果として導くことが出来るのである．

本講演は、種村秀紀氏 (千葉大) との共同研究に基づく．

- [1] 香取眞理, 種村秀紀：非衝突過程・行列値過程・行列式過程, 「数学」61(3), 225-247 (2009).
- [2] M. Katori and H. Tanemura : Complex Brownian motion representation of the Dyson model, arXiv: math.PR/1008.2821.